

温室効果ガスの種類

ガスの種類	人為的な発生源	主な対策
エネルギー 起源二酸化炭素 (CO ₂)	産業、民生、運輸部門などにおける燃料の燃焼に伴うものが全温室効果ガスの9割程度を占め、温暖化への影響が大きい	エネルギー利用効率の向上やライフスタイルの見直しなど
非エネルギー 起源二酸化炭素 (CO ₂)	セメント製造、生石灰製造などの工業プロセスから主に発生	エコセメントの普及など
メタン (CH ₄)	稲作、家畜の腸内発酵などの農業部門から出るものが半分以上を占め、廃棄物の埋立からも2～3割を占める	埋立量の削減など
一酸化二窒素 (N ₂ O)	燃料の燃焼に伴うものや農業部門からの排出が3割～4割を占める	高温燃焼、触媒の改良など
ハイドロフルオロ カーボン (HFC)	エアゾール製品の噴射剤、カーエアコンや冷蔵庫の冷媒、断熱発泡剤などに使用	回収、再利用、破壊の推進、代替物質・技術への転換等
パーフルオロ カーボン (PFC)	半導体等製造用や、電子部品などの不活性液体などとして使用	製造プロセスでの回収等や、代替物質・技術への転換等
六ふっ化硫黄 (SF ₆)	変電設備に封入される電気絶縁ガスや半導体等製造用などとして使用	(絶縁ガス) 機器点検時・廃棄物の回収、再利用、破壊等 (半導体) 製造プロセスでの回収等や代替物質・技術への転換等
三ふっ化窒素 (NF ₃)	半導体等製造用などとして使用	製造プロセスでの回収等や代替物質・技術への転換等

<参考>

「地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく地方公共団体の事務及び事業に係る
『実行計画』策定マニュアル」